

上からの管理が自縛せよ

老朽化建築物強制的破壊→牢獄的官 サークルボックス建設を許すな！

全学の学生、教職員の皆さん、中央館の一一方的破壊及び立看の一方向的撤去に見られる様な、最近の大学当局の態度をどのように思われますか。中央館は授業はもちろん、様々なサークルが使用していたにもかかわらず、一方的強制的に撤去されたわけです。また4月以降の教養部の交通規制についても、駄々、教官による警察まがいの強制的な監視でもって規制しています。そのような京大当局の管理体制を皆さんなどどのように思っておられるでしょうか。すべてを徹底化し、それを上から強制的に押しつけ、現社会体制に従順な学生をつくらんとしている。すなわち大学再編の現われではないのでしょうか。

このような大学再編、管理強化は着々と進められつつあるのです。これまでの斗争により、上からの管理を拒否して、自主管理という一定の成果をかちとつて来た反対、あるいは自主的創造的活動の場たるサークルボックスを、老朽化という理由により一方向的に撤去だけを行ない、大学の官僚的秩序の中にしっかりと組み込んでいこうという当局の意図が中央館の一方向的破壊のうちに読みとれるのです。この動きは、偶々的には、官において学生部長による管理運営権を集中させる管理規定（○管規）の適用と受益者負担の原則の教育の場への持ち込みにより宿生に多大の出費を強いる負担区分として現われ、サークルボックスにおいては使用時間制限等として現われています。つまり学生が大学の施設を利用させていただくという形にしたいのです。

これらのことを行なう為にとる当局の手段が当事者との話し合いで拒否し、大学当局内ご密室

的に方策を決定していくのです。官に対して学生部がとっている態度をまさしくそのようなものなのです。公用の場における話し合いを拒否したばかりか、人数制限つき話し合いなら行なうといいつつ、その話し合いに行動隊を配備させるという話に答い破壊→拒否を行なつたのです。

こういった学園再編の目的は何なのでしょうか。それは現体制における大学の実際の機能を、真理の探求とか専向の府とかいった幻想にまどわされずに考えて見るなら自然と明らかになってくるのではないかでしょうか。現在日本の教育制度は総体として、すべての国民を各種の労働力商品に選別するものとして機能しており、京大の卒業証書は有名銘柄労働商品の商札の役割をしているのです。その機能のよりいゝそなうの「整備」として、すなわち大学のすみすみまで上からの管理がしっかりと行き、大学が資本に従順な労働力商品の生産工場となるように学園再編といわれるものが進められているのです。この目的で文部省のモデル校である、筑波大学では学園祭の問題を先端として、大学当局→政府文部省に対する斗いが盛りあがっています。すべてのみなさんが管理強化の運びに對峙して共に斗っていこうではありませんか。

吉田寮自治会

80.10.29